

八清親和会 自治会役員の一とり言

令和4年7月26日

No36

八清親和会 副会長

吉田祐治

今、会員の最大の関心事は「昭島市の新型コロナ感染状況」である！

3年を経ても、一向に終息の気配を見せない新型コロナウイルス感染症は、逆に波を重ねるごとに感染拡大の波が大きくなっていく、即ち、ピークは波を重ねるごとに大きくなり過去最多を更新している。

このため、今、会員の最大関心事は「新型コロナウイルス感染症の感染拡大」である。関心度は、

1. に、一番身近な昭島市の感染状況情報
2. に、東京都の感染状況情報
3. に、全国の感染状況の情報
4. に、自分が感染するのではないか、との不安
5. に、どうしたら感染しないようにできるかの、感染予防対策情報

である。

しかし、政府、自治体は、波を追うごとに感染の規模が大きくなっているにも関わらず、「経済を回し社会インフラの維持計っていくと共に、感染拡大の抑制も図っていく」の両輪を行っていくため、行動制限は行わないと言っている。

これから夏休みに入り、帰郷や旅行、夏の行事等による人の移動の活発化や密集、長時間、多人数による飲食の機会が増え、「3蜜」の危険性が増すと思われるが、5回目のワクチン接種や重症者が増えなければやむを得ないとしか聞こえてこない。これは経済を回すことを優先するため、中等症・軽症、濃厚接触者が増えることは、もはや、やむを得ないとしか思えない。しかし、感染拡大の抑制どころか、過去に経験したことのないスピードと爆発的な感染拡大が続いているにも関わらず、「第6波」まで行ってきた規制が緩和されて続けている。

即ち「第6波」をはるかに超えるスピードと爆発的な感染拡大にも関わらず、政府、自治体、TV、メディア等の情報はトウウンダウンしている。一方、現場は、すでに検査対応、病院の患者受け入れ態勢等の逼迫が始まっている情報が連日流されている。しかし、この現場との乖離がなぜ起こるのか、また、感染予防対策も、百家争鳴で何が正しいのか、また、一番良い予防対策は何かわからない。これは、すでに抜本的対策はなく、運用面での対策しかないように思われる。

また昭島市の感染状況から見えてくるのは、「第6波」と大きく違うのは、すでに、感染患者の「治療別内訳の、自宅療養が感染患者全体の6割以上を占め、入院・宿泊施設等の受け入れ先が決まらない感染者や、保健所の対応待ちの自宅待機状態（調整中）の感染者が3割を占め。この2つで感染患者全体の9割以上を占める驚異的な数字になっている。

これが受け入れ先未定の数字となって現れている。昭島市の感染患者の数字を見ても実態は、すでに、保健所の対応が追い付かない、あるいは逼迫状態に入っていると思われる。

即ち、家庭内感染が増加する危険な環境にあると言っても過言ではない。このような感染状況をしっかり見据え感染予防対策を実行徹底する必要がある。もはや、感染してから後悔したのでは、遅い（after）、感染しない（before）を念頭に於き“感染しない、感染させない”ために、一人ひとりができる基本的な感染予防対策を実行、徹底して“自分を守れないようだ。

「第7波」のピーク時期や感染者数の予測できない。このような驚異的なスピードと感染拡大の急増が続くと昭島市の「第7波」は驚異的な感染者数、感染患者数になると思われる。

このような状況下で、自治会が会員にできることは、如何に一番身近な昭島市の感染状況情報を、何にスピーディーに、解かりやすく提供し、感染予防対策を実行徹底してもらうしかない。これからも、八清親和会の目的の、

会員のための、
会員目線で、
会員が必要とする自治会、

を目指し、ブログ投稿や会報を活用して「新型コロナウイルス感染症の情報」提供していきます。皆さんの自治会は、このような要望は会員からありませんか、会員は昭島市の感染状況を正しく把握していますか！

知らないほど怖いものはナシ！

以上